

## 未来への「お年玉」

エコチル調査福島ユニットセンター  
センター長 橋本浩一

明けましておめでとうございます。

旧年中はエコチル調査をご理解、ご協力をいただきありがとうございました。東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査はこの1月で満4年となり、いよいよ5年目に突入します。最初の年に生まれたエコチルキッズは4歳となり幼稚園の年少さんへの入園でしょうか。お陰様でエコチル調査は全国では目標の10万人を達成し、福島県では最終的に13,134人の妊婦さんにご協力をいただきました。この参加人数は福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただいていることを意味します。本調査へ寄せられている大きな期待と責任を感じております。また、昨年10月からは、全体の5%の方に無作為にご協力をお願いする詳細調査への新たなステージへと乗り出しました。5%の方々には昨年11月から自宅の環境測定、そして本年4月からは病院での医学的検査、精神神経発達検査もお願いすることになります。

ご承知のことと思いますが、環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言(マイアミ宣言)が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、現在、日本、デンマーク、フィンランド、アメリカが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫学研究が実施されています。福島のご家族のお1人お1人のご協力が世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。

新たな年を迎え、エコチル調査福島ユニットセンターは、微力ながら「福島で産み育てる」ことをお手伝いすることが最大の課題とすることを改めて胸に刻み、そして、日本の未来の子ども達、そしてご家族に大きな「お年玉」がお渡しできるよう、参加者、関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に子どもたちの成長を見守り、歩み続けたいと存じます。

本年が皆さまにとりましてより良い年になりますようお祈り申し上げます。

平成27年1月